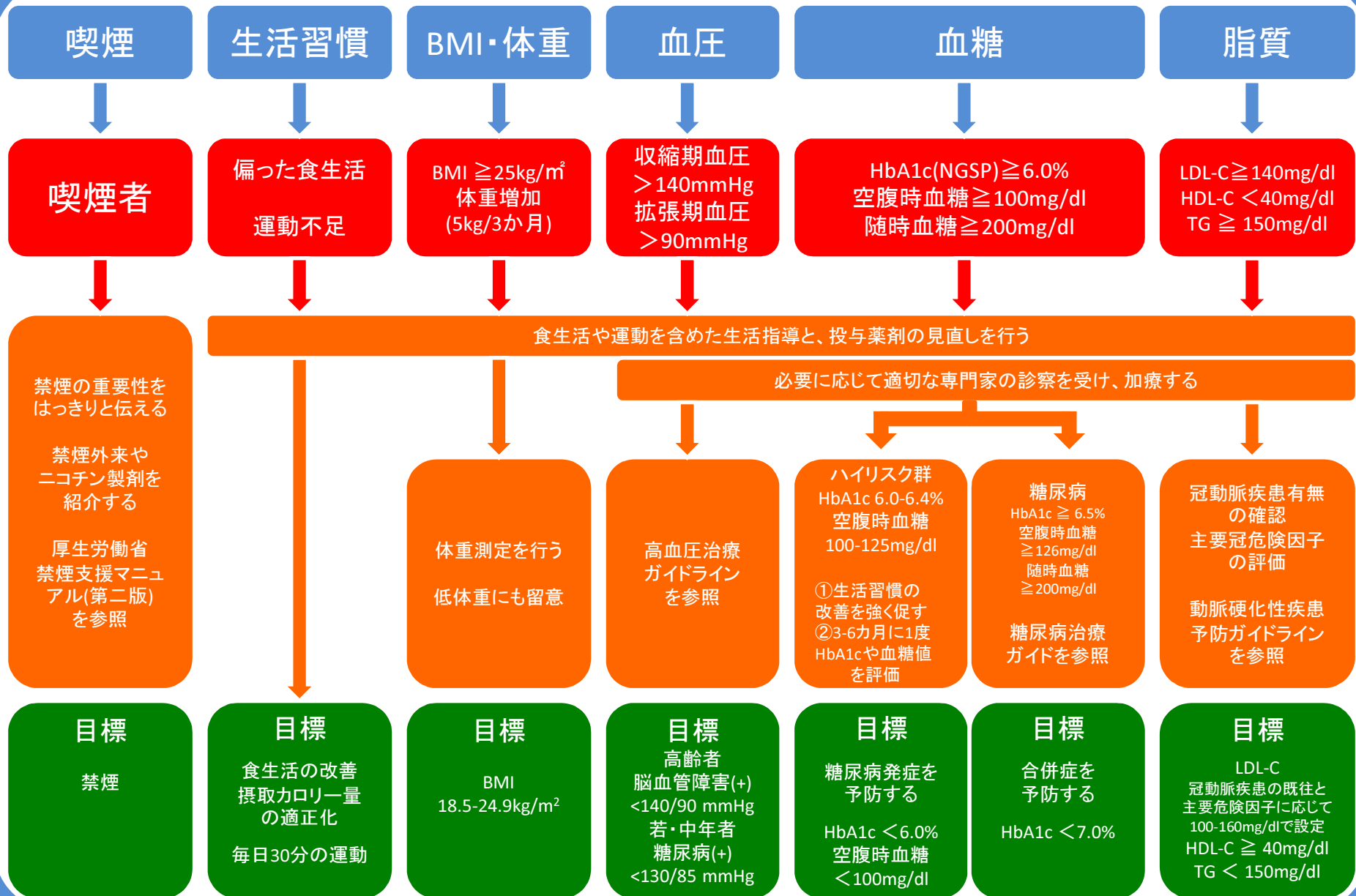


抗精神病薬服用中の身体ケア

精神病症状の治療を受ける若者の身体ケア向上をめざす
HeAL (Healthy Active Lives) ガイドライン 日本版 2013



抗精神病薬を
服用中の方に
適切な
身体ケアを！

精神疾患は治療が長期にわたることも多く、生活習慣や身体疾患の合併は生活の質を大きく左右します。

そこで精神科医と内科医が連携して、積極的に身体疾患のモニタリングと治療を行う必要があります。

内科医は主に身体的治療の評価を行い、精神科医は抗精神病薬の見直しを検討します。

抗精神病薬を処方時に必要な診察項目

新たな抗精神病薬の開始時および3カ月後を目安に、身体的評価を行う。

投与初期の急激な体重増加は、長期的にも重度の体重増加の予測因子であるため、新たな抗精神病薬の服用開始から8週間は、週1-2回程度の体重測定が望ましい。

それ以降は身体的不調がなければ年1度を目安に精査を行う。必要な際には適切な治療を行い、必要に応じて約3カ月ごとに再評価する。

病歴聴取

- ・過去の急激な体重増加(3ヶ月以内5kg増)
- ・喫煙、運動、食生活、定期健診の把握
- ・妊娠歴がある場合は妊娠糖尿病の既往
- ・糖尿病、肥満、心血管疾患の家族歴

理学所見のポイント: 体重, BMI, 血圧

血液検査

血算, 血糖値, HbA1c, TChol, HDL-C, LDL-C, TG, 肝機能(AST, ALT), 腎機能(BUN, Cr), 電解質(Na, K, Cl)

心電図

心血管系疾患の既往や家族歴がある場合、不整脈発生リスクの高い薬物(抗精神病薬、抗うつ薬、抗菌薬など、添付文書参照)を併用している場合は、定期的に心電図検査を行う。

生活習慣の見直し

栄養指導:

- ・カロリー摂取量を減らして体重増加を防ぐ。
- ・ファーストフード・ジャンクフードを控える。
- ・ジュース、ソフトドリンク等の飲料を控える。
- ・食物繊維の摂取を増やす。

運動:

- ・歩行又はそれと同等以上の強度の身体活動を毎日30分行う。
- ・あるいは、息が弾み汗をかく程度の運動を1週間に合計60分行う。

3か月後に目標が達成されない場合、次の薬物療法導入を検討する

身体疾患の薬物療法(内科医に紹介し、併診とすることが望ましい)

- ・**高血圧:** 日本高血圧学会「高血圧治療ガイドライン」参照
- ・**脂質異常症:** 日本動脈硬化学会「動脈硬化性疾患予防ガイドライン」参照
- ・**糖尿病:** 日本糖尿病学会「糖尿病治療ガイド」参照

抗精神病薬の見直し(主として精神科医が担当する)

以下のような場合は優先的に取り組む。

- ・抗精神病薬開始後の急激な体重増加(例: 3ヶ月以内に5kg増加)
- ・急速な脂質、血圧、血糖の異常の進行(3ヶ月以内)

精神科医は抗精神病薬がこれらの原因であるかを判断し、疑いがあれば、より副作用が少ない処方への変更を検討する。

- ・まず処方量が適切か検討する。多剤併用は合理的な理由がなければ行うべきではない。
- ・抗精神病薬の変更には慎重な臨床判断が必要である。薬剤変更による利益と精神症状の再発リスクを勘案して判断する。
- ・1年以上の長期にわたって同じ薬剤を内服していた場合、薬剤変更により利益を得ることは一般的に少ない。
- ・臨床的判断や患者の希望により薬剤の変更が行えない場合、その後も適切なモニタリングと治療内容の検討を継続する。

作成: 東京大学医学部 精神医学教室

原著者Jackie Curtis氏(オーストラリア), David Shiers氏(英国)の許諾を得ています